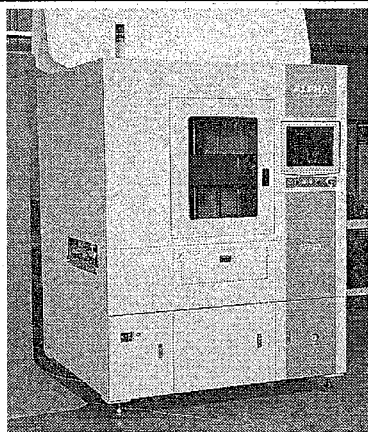


自動車向け 開発本格化

アルファードesign

産業機械メーカーのアルファードesign(長野県東御市、森沢正良社長)は自動車の電子部品向け装置開発を本格化する。プリント回路基板に、はんだ付けなしでコネクタを実装する装置を九月に発売する。さらに来夏にはICチップを接合して電子部品を組み立てる機種を売り出す。好況が続く自動車関連製品を充実させる。



アルファードesignは自動車の電子部品向け装置事業を本格化する(東御市の本社工場)

コネクタ実装装置

処理能力2割増 他社比2割安く

自動車部品の専用装置として開発した。鉛を材料とするはんだ付けをしないでコネクタを実装できるのが特徴。環境負荷を軽減できるといふ。圧入ヘッドの軽量化で移動速度を速め、処理能力を二割引き上げた。量産対応の標準機で価格は二千五百万円と、他社製品に対し二割程度安くしている。二〇〇六年五月完成の新工場で生産、年五十台の販売を目指す。一方で新製品の開発も進める。現在、大阪支社を中心にCPU(中央演算処理装置)や大規模集積回路(LSI)などのICチップを接合して電子部品を組み立てる「フリップチップボンダー」を開発中。価格は他社製品より二五%安い四千万円を想定する。年内開発の予定で〇八年八月の発売を目指す。

自動車関連の製品開発に拍車をかけるため、二億円の無担保私募債を発行した。新型機の開発のほか、自動車部品の性能を分析する試験装置の購入費に充てる。これまでは携帯電話や

パソコンなど電子情報部品のプリント回路基板用の製造装置を中心に事業を進めてきた。自動車部品向けの装置も扱ってはいたが、取引先の要望に際して個別につくり込む方式で、販売台数は年間二十五台程度にとどまっていた。ただ、プリント回路基板はエンジン制御装置やエアバッグなど自動車に搭載される様々な部品で用いられている。自動車部品の製造装置の需要も高まっていた。〇六年十二月の売上高は約二十二億円で、自動車関連は一八%程度。〇八年十二月は自動車関連の比率を三割に高め、売上高を四十五億円に伸ばす計画だ。

変額年金保険の新商品

八十二銀 最短3年で原資確保

八十二銀行は六日か一年原資を受け取れるの必要が高まっている。八月九日の円ドルレートに基づき、二年の取り扱いは始める。一年に判定する円ドルレートが基準として、二年の取り扱いは始める。一年に判定する円ドルレートに基づき、二年の取り扱いは始める。一年に判定する円ドルレートに基づき、二年の取り扱いは始める。

海外進出、11社減

昨年末県内企業 閉鎖・売却が増加

日本貿易振興機構(JETRO)長野貿易情報センター(シエトロ長野)の海外進出状況によると、二〇〇六年末の企業数は二百三十五社で前年比十一減の七百三十一カ所。米国(二十減の七十

やインド(二増の六カ所)など、新興市場では進出が目立った。調査は昨年十二月から今年二月に約四百五十社に実施。県内に工場などがある他県の企業も対象とした。シエトロ長野は各社の海外拠点の所在地や事業内容などをまとめ

登場

家庭や工場、店舗に電気を届ける設備に携わる配電部門で長いキャリアを持つ。それだけに「電力会社は電気を安全かつ安価に安定供給するのが使命。これをしっかりとやりたい」という言葉に力がこもる。「風水害は

中部電力長野支店長 永田 高博氏(52)



者に電力販売を奪われている例もある」と警戒する。同時にオール電化の普及拡大も狙う。「利便性をしっかり訴え、県内で現在四万五千戸の契約戸数を二〇一〇年度までに五万戸増やしたい」。長野支店勤務は二度目になる。前回は一九九六年から九八年まで営業部配電課長として赴任し

電気を安全・安価に安定供給

整備と大規模な管理体制改革だ。「世界失敗は許さず、圧の中で五輪期間に異常は起こらないようにする。すべったが、技術の際、作で舞台冷やしたられない。野山の度行っている。夏休みには